

令和8年度 行橋市中学校海外体験学習事業（受入） 事業報告書



行橋市中学校海外体験学習事業実施協議会

事業の概要	P2
ホストファミリー名簿	P3
来訪者名簿	P4
行橋市訪問スケジュール	P5
活動の様子	P6
各家庭での様子	P7
中学校体験	P8
行橋市内等視察	P9
日本の文化体験	P10
フェアウェルパーティー	P12
アンケート結果（生徒）	P13
アンケート結果（保護者）	P15
おわりに	P17

① 目的

「グローバルな視点を持ち、夢に向かってチャレンジする子ども」を育てるために、行橋市の中学生とニューヨーク市グレイス・チャーチ・スクールの中学生在が相互に訪問し、学校体験やホームステイを実施することを通して、教育・文化・生活の違いを体験し、異文化理解や英会話力等、豊かな国際感覚を身につけさせることを目的として行う。

② 主催 行橋市中学校海外体験学習事業実施協議会

③ 共催 行橋市教育委員会

④ 交流校 アメリカ合衆国 ニューヨーク州 ニューヨーク市
グレイス・チャーチ・スクール(Grace Church School)

⑤ 滞在期間 令和8年6月13日（土）～6月20日（土）
※各家庭でのホームステイは6月18日（木）まで

⑥ 参加者 生徒12名、引率者2名

⑦ 宿泊先 各ホストファミリー宅
※6月19日（金）は行橋市研修センター泊

⑧ 受入内容
(1)ホームステイ
(2)中学校体験
(3)行橋市内等視察
(4)日本の文化体験

ホストファミリー名簿

	氏 名	よみがな	中学校	学年	性別	年齢
1	淵上 楓子	ふちがみ ふうこ	行橋	1	女	13
2	長濱 杏樹	ながはま あんじゅ	行橋	2	女	13
3	天野 湊	あまの かいり	行橋	2	男	13
4	畠山 貴大	はたけやま たかひろ	行橋	3	男	14
5	大川 絢音	おおかわ あやね	中京	2	女	14
6	藤原 環太	ふじわら かんた	泉	2	男	13
7	吉廣 柊飛	よしひろ しゅうと	泉	2	男	13
8	清原 良要	きよはら りょうよう	今元	1	男	12
9	作本 聖来	さくもと きよら	仲津	3	男	14
10	宮路 康花	みやじ しずか	仲津	3	女	14
11	コックス 凜人	こっくす りんと	長峽	3	男	14
12	吉村 煌羅	よしむら きあら	育徳館	1	男	12

【生徒名簿】

	Name	Grade	Gender
1	Gabrielle Inirio	Grade7	Female
2	Leo Turner	Grade7	Male
3	Luis Muniz IV	Grade7	Male
4	Kate Conover	Grade8	Female
5	Charley Westergaard	Grade8	Male
6	Daniel Shey-García	Grade8	Male
7	Claire Min	Grade8	Female
8	Thatcher Olinick	Grade8	Male
9	Luke Stoneham-Yoshino	Grade8	Male
10	Theodore Gavejian	Grade8	Male
11	Augusta Pankoff	Grade8	Female
12	David McGee	Grade8	Male

【引率者名簿】

1	Peggy Chan	Adult	Female
2	Jennifer Tashman	Adult	Female

行橋市訪問スケジュール

(6月)

日	曜日	時間	発着/滞在地	行程	備考
13	土	10:40 10:55	北九州空港	ホストファミリー 集合 グレイス・チャーチ・スクール (GCS) 生徒 着 対面式→各家庭へ 【ホームステイ1日目】	
14	日		各家庭	各家庭で過ごす 【ホームステイ2日目】	
15	月		各家庭→各学校	市内中学校体験入学 【ホームステイ3日目】	
16	火		各家庭→各学校	市内中学校体験入学 【ホームステイ4日目】	
17	水	8:30 16:00	各家庭→各学校 各学校→現地 現地→各学校	行橋市内等視察 (GCSの生徒のみ) 各学校発 市内等視察 (平尾台→蓑島まで貝堀) 平尾台…千仏鍾乳洞探検・万華鏡作り・平尾台散策 ↓ 蓑島 (まで貝堀) ↓ 各学校 着 【ホームステイ5日目】	ホストファミリーと一緒に学校に登校 →市職員が各学校を巡回してGCSの生徒をピックアップ 市職員が各学校を巡回してGCSの生徒を送る →ホストファミリーと一緒に学校から下校
18	木	8:30 16:00	各家庭→各学校 各学校→現地 現地→各学校	日本の文化体験 (GCSの生徒のみ) 各学校発 浄喜寺 (書道・茶道・琴を体験) ↓ 昼食 ↓ フルーツ工房 えふ ↓ 各学校 着 【ホームステイ6日目】	ホストファミリーと一緒に学校に登校 →市職員が各学校を巡回してGCSの生徒をピックアップ 市職員が各学校を巡回してGCSの生徒を送る →ホストファミリーと一緒に学校から下校
19	金	18:00 20:00 20:45	各家庭→各学校 行橋市中央公民館 ↓ 行橋市研修センター	市内中学校体験 フェアウェルパーティー フェアウェルパーティー終了 GCSの生徒は研修センターに宿泊 【研修センター泊】	学校終了後、ホームステイ先に帰宅→荷物を持ってホストファミリーと中央公民館に集合。 ※ホストファミリー参加
20	土	6:30 7:09	行橋市研修センター ↓ 行橋駅	GCSの生徒を行橋駅まで送る (タクシー・公用車) GCSの生徒 お見送り	※ホストファミリーの参加は任意

◎6月13日（土）北九州空港到着

定刻通り飛行機が到着し、GCSの生徒及び引率者が北九州空港に到着しました。到着後は、ホストファミリーとの対面式を行いそれぞれの家庭へ移動しました。

いよいよホームステイが始まります！



◎6月15日（月）市長・議長表敬訪問

引率者が市長・議長への表敬訪問を行いました。今回の交流事業について意見交換をし、有意義な時間となりました。

また、GCSオリジナルグッズを記念品としていただきました。



◎6月14日（日）

日曜日は、それぞれのホストファミリーと一日過ごしました。観光地や商業施設、公園などさまざまな場所に連れて行っていただいたほか、日本ならではの食事や家族団らんを通して、日常生活や文化に触れる貴重な時間を過ごしました。日本の暮らしを実際に体験することで、多くの学びや思い出を得る機会となりました。



◎6月15日（月）・16日（火）・19日（金）



月曜日からは、ホストファミリーと一緒に学校へ通い学校体験が始まりました。授業だけでなく、休み時間や給食、清掃活動などを通して日本の生徒と交流を深めました。

日本の生徒たちも積極的に英語で話しかけたり、身振り手振りを交えながらコミュニケーションをとる姿が見られ、互いに理解し合おうとする温かい交流が生まれました。



◎6月17日（水）

・平尾台での千仏鍾乳洞・万華鏡作り



平尾台では、千仏鍾乳洞探検と万華鏡作りを行いました。千仏鍾乳洞では実際に入り、神秘的な景観に触れました。その後は、万華鏡作りを体験し、それぞれが思い思いのデザインでオリジナルの作品を制作しました。自然学習と日本のもの作りを体験し、充実した一日となりました。

・蓑島でのまて貝堀り・正八幡宮



平尾台の後は、蓑島海岸に行き、まて貝堀りを体験しました。生徒たちは興味津々の様子で取り組み、夢中になってまて貝を探しました。自分たちで見つけた際には、歓声上がるなど終始笑顔あふれる活動となりました。

その後は、正八幡宮へ行き参拝方法を教わりながら、お参りをしました。

◎6月18日（木）

・ 書道体験



18日（木）は浄喜寺にて日本の文化体験を実施しました。書道では、講師の先生による筆使いや文字の書き方の実演を見学した後、「友」「平和」「侍」などの漢字の練習に取り組みました。最後は、色紙に漢字を書きお土産として持って帰りました。

・ 茶道体験



茶道では、講師の先生から作法についての説明を受けた後、自ら抹茶を点てる体験を行いました。また、抹茶とともに和菓子を味わい、日本ならではの「おもてなし」の心や伝統文化に触れる機会となりました。

◎6月18日（木）

・ お琴体験



お琴体験では、日本の伝統的な楽曲である「さくらさくら」の演奏に挑戦しました。生徒たちは初めて触れる楽器でありながら、先生方の指導を受け短時間で演奏方法を習得し、美しい音色を奏でることができました。



3つの文化体験終了後は、雅楽の演奏を鑑賞しました。その後は、浄喜寺にて昼食をとりました。お寺という歴史ある落ち着いた空間で食事をとることは、ニューヨークの生徒たちにとって大変新鮮な体験となったことと思います。

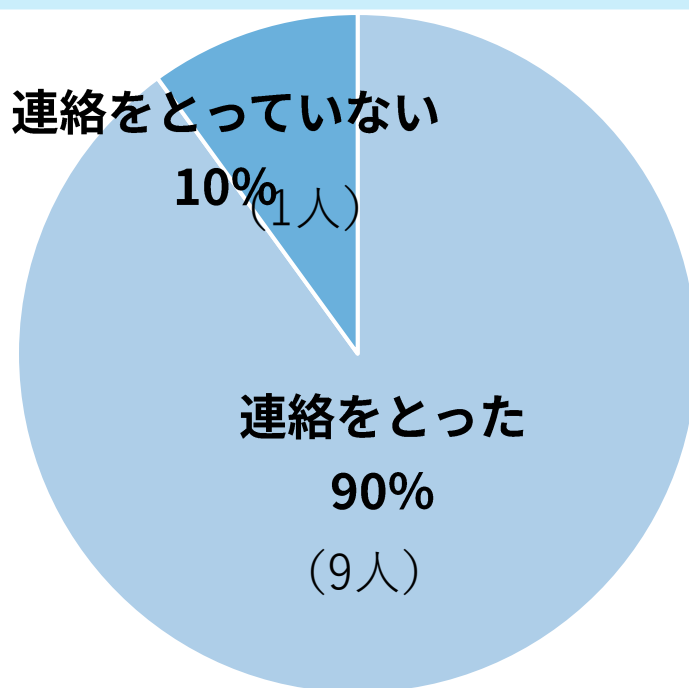
◎6月19日（金）

19日（金）は中央公民館にてフェアウェルパーティーを開催しました。フェアウェルパーティーでは、引率者よりホストファミリーに対し、本事業参加へのお礼の挨拶がありました。ホストファミリーごとにテーブルを囲み、食事や懇談を楽しみました。お別れの際には、別れを惜しむ姿も見られ、この事業を通して築かれた絆の深さを実感できる締めくくりとなりました。

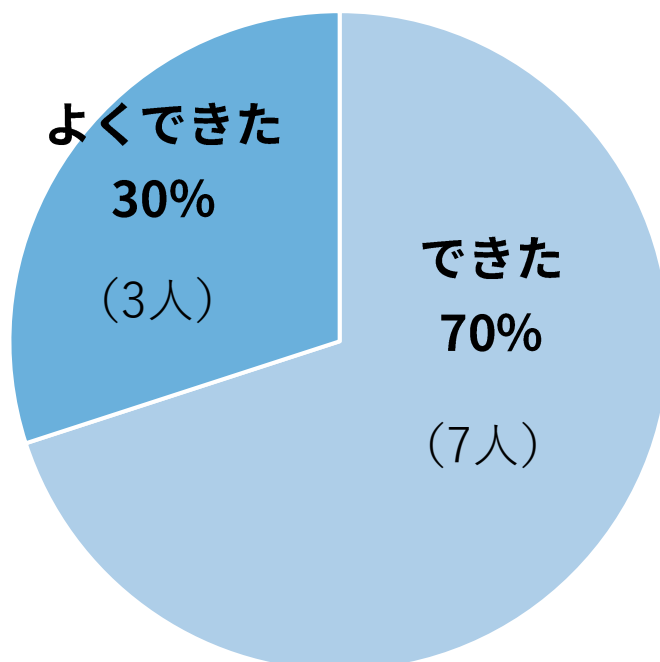


回答数10件/12件

事前にGCSの生徒とメール等で連絡を取りましたか。



GCSの生徒と英語を使って会話はできましたか。



今回の経験を通して、英語に対する意識や自身の進路に対する意識に変化はありましたか。
また、どう変化したのかご記入ください。



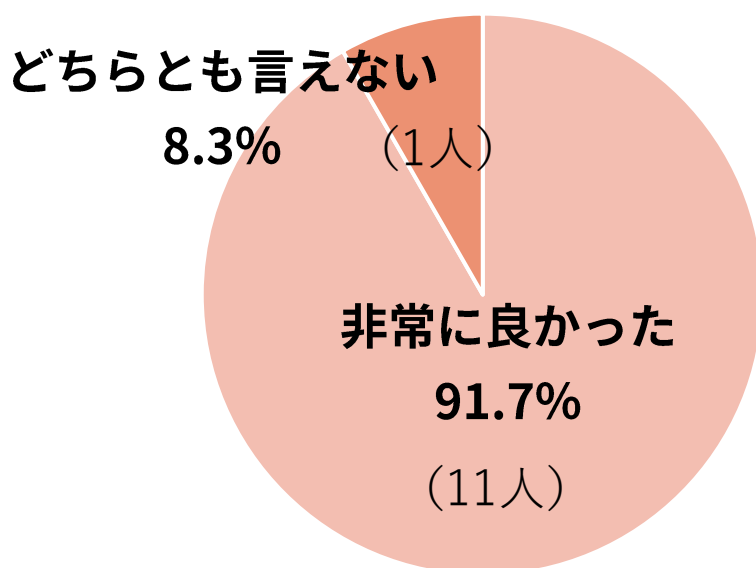
- ・行きたい高校に変化があり、海外留学に行きたいと考えるようになった。
- ・英語を習っているので、ある程度話せると思っていましたが話すスピードが速く、全く分かりませんでした。外国人との会話は英語とは全く違うものだと感じました。英語は会話を聞き取るリスニング力が重要だと思ったので、映画の物語の聞き流しなどを聞いて、リスニング力を高めていきたいです。
- ・もっと英語を勉強したいと思い頑張っています。
GCSの生徒が帰ってからは、図書館へ行ってNYの本を借りたり、母と英語で話す練習をしています。
- ・いざ人の前で話すとなると、練習の時より何倍も難しく、もっと勉強しないとと思いました。

本事業につきまして、ご意見等がありましたら、教えてください。

- ・1週間は短かったです。2週間くらいの長い期間のホームステイでも良いと思いました。
- ・この事業で自分の英語が成長できたと思った。派遣事業でニューヨークに行ってさらに英語について学びたいと思いました。
- ・もうちょっと日本の文化や生活に興味を持っている人に来て欲しかった。

回答数12件/12件

お子様をこの事業に参加させて良かったですか。



受入後のお子様の様子を見てご意見・ご感想があれば教えてください。

- ・ホームステイを受け入れる前は、英語や海外にほとんど興味を示していませんでした。一緒に過ごす中で海外の文化や英語に興味を持つようになり、「もっと知りたい」「英語を話せるようになりたい」という気持ちが芽生えたように感じます。
- ・本人の心の成長になったと思うし、相手の立場で考えるということを実感に感じ取れたと思う。
- ・英会話を習っていても使う機会がないため、自身のレベル確認と向上心の刺激になりました。また兄弟達にとっても良い経験でした。
- ・「もっと会話が出来れば良かった」と自ら進んで英語の勉強をするようになった。また、海外のことに興味を持つようになった。

ご家庭として、ホームステイの受け入れを行って良かったことをご記入ください。

- ・言葉が通じない中で相手を思いやる気持ちを強く持てたことと、習うだけではなく自ら学び使える英語を身に付けたいと思うようになっていたと感じた。
- ・英語を習得した方が良いという義務感から、純粹にコミュニケーションを取るために習得したいと思えたこと。ホームステイしたお子さんのご家族とも英語のメッセージでやりとりをしたり、海外の家族が増えてとても嬉しかったです。
- ・家族がみんな、彼のことが大好きで、どうにかして意思疎通を図り、親切にしようとしているのが分かりました。家族全員がリビングに居る時間が長くなり、いつもより早起きしたり、家事手伝いをしたり、生活リズムや家族の絆もより良好になったと思います。
- ・もっと英語を話せるようになりたい！と親も子も思うようになった。
- ・日本ならではのおもてなしを家族皆んなで考えてとても楽しめた。
- ・受け入れ中の1週間は、本当に賑やかで楽しい毎日でした。たった1週間という短い期間でしたが、とても素直で優しい子で、いつの間にか家族の一員のような存在になっていました。

今年度の受入事業は、令和6年度以来2年ぶりの実施となりGCSから生徒12名と引率者2名を受け入れました。参加者の中には、令和7年度の派遣事業をきっかけに参加した生徒もあり、派遣事業と受入事業の相乗効果を実感することができました。また、受入期間中は梅雨の時期でありましたが市内等視察や、浄喜寺での文化体験では、天候にも恵まれ、大きな問題もなく全行程を滞りなく実施することができたことに大変安堵しております。

中学校体験では、市内6校の中学校に加えて育徳館中学校においても学校交流を実施することができました。GCSの生徒は授業や給食、清掃活動など日本の学校生活や文化を体験することができ、日本文化への理解を深めていただけたことと思います。一方で、日本の生徒は実際に外国人と英語を使ってコミュニケーションをとることで、相手に伝わる喜びを実感することができました。この交流を機に、将来の進路や職業選択の幅を広げる一助となることを願っております。

また、今回の受入事業はホストファミリーの皆様の多大なるご理解とご協力に支えられ、無事に実施することができたことを心から感謝申し上げます。GCSの生徒を家族の一員として受け入れてくださり、日本の文化だけでなくおもてなしの心を肌で感じることもできたことと思います。

加えて、本事業にご協力いただいた多くの皆様のおかげで様々な行事を設けることができたことに重ねてお礼申し上げます。



今後も本事業を継続・発展させるとともに、行橋市とGCSとの交友関係をより一層深めていけるよう努めてまいります。

また、将来を担う子どもたちの国際感覚の醸成とグローバル人材の育成に寄与してまいります。